



Rekitomo Newsletter

【報告】 友の会令和6年度第1回研修旅行 「新津歴史再発見」に参加して

川口 伊麻里

6月2日（日）に研修旅行に参加いたしました。行先は「新津」でありました。

長岡駅で第一陣を乗せたバスが9時少し前に歴博職員駐車場に着きました。そこで待っていた第二陣が乗り込みました。すると、山本さんが職員玄関から出てきました。「えっ！研修旅行に参加するの？」と皆が思いましたが、残念ながら学会があって、参加できないとのことでした。出てきてくれた理由は、私たちを見送るために外に出て来てくれたのでした。

今回の交通手段はバスと各々自家用車を利用しての現地合流でした。バス利用のメンバーは少なくて10数人のみでしたが、バスガイドさんがなかなかの博識で道すがらの説明を聞きながら一路新津へと進みました。

最初の目的地は「県立植物園」。駐車場から植物園まで歩く間にちょうど雨が降ってきました。植物園の目玉の熱帯植物ドームの展示は時期的なことであってか花や実も無く、残念ながらインパクトに欠けていました。企画展のアイヌと植物の関連の展示もアイヌ語の植物名が表記してあるだけで、長岡にある身近な植物と大差がないように見えてちょっとがっかり。でも、この企画展に併設された北海道物産展で購入した夕張メロンのキャンディーがおいしかったことが救いでした。

次は私にとって初めて訪ねる「石油の世界館」。金津油田を中心とする石油採掘の歴史や、石油と人とのかわりを紹介する展示館で、石油を掘っていた頃の道具や写真、石油を利用するための道具、石油の誕生から現在の油田の様子などのジオラマを前に石油の世界館友の会の方から一連の説明を受けました。



その後で、別の友の会の方に近くの石油採掘から加工処理の施設を足早に回りました。時間の関係で見ることが出来たのは金津油田施設のごく一部で残念でした。時間があれば一日かけて回ってみたい気がしました。

途中で中野邸の脇を通った際に、閉館しているようだったので友の会の方に尋ねたら、開館するのは秋の紅葉の季節限定になったようでした。石油王の壮大な庭と美術品を見ることが出来ず残念でした。



当日の昼食は新津の町の中にある割烹桝形屋に予約されていました。団体客も多く受け入れていると見えて手慣れた接待でした。準備された食事大変においしく満足。桝形屋を出る頃にはかなり激しい雨となり、バスを玄関まで着けてもらって乗り込みました。

最後の見学は新津鉄道資料館。新津がなぜ鉄道の町と呼ばれているかと言え、ここが信越線、羽越線、磐越線の3本が交差する鉄道の要所であり、戦前は中国等への輸送基地となった新潟港への輸送力増強のため、鉄道の車両工場も新津に誘致され、さらに人口が増えて働く人の四人に一人は鉄道関係者だったそうです。

屋内展示室には大型資料から小さな資料まで、また鑑定団に出てきそうなマニアであれば垂涎の貴重な鉄道グッズのコレクションが展示されていました。屋外展示場には懐かしい「秋田行の特急いなほ」、「だんご鼻の200系やMaxの愛称だった二階建てのE4系の新幹線」「貴婦人と呼ばれたC57型SL」など鉄道ファンでない私にも懐かしくタイムスリップしたような気持ちになりました。鉄道資料館を見学して解散となり、バス組と自家用車組に分かれて帰路につきました。



新津にはたびたび訪れる機会がありますが、金津油田施設が山全体に残っていることなどは知らず、私にとっては新たな発見でした。改めてゆっくりと探索してみたいと思っています。今回の研修旅行の企画段取りをしていただきました三国さんに感謝申し上げます。



令和 6 年度の友の会の展覧会活動に向けて

令和6年3月31日に「第20回マイ・コレクション・ワールド」が無事終了し、総観覧者数は1,323人でした。出品内容は以下のとおり（順不同）。

- ・マイコレ 20 回
- ・花火フレイム切手
- ・ちいかわグッズ
- ・空き缶
- ・身近な考古学
- ・福島城資料
- ・宝くじで博物館
- ・AKIRA グッズ
- ・ウルトラ怪獣
- ・ニャンコ先生グッズ
- ・震災関連新聞
- ・猫フィギュア
- ・ミュシャ
- ・復興記念館資料
- ・ちぐら
- ・長岡土器造り同好会作品

ちなみに最後の2件は会員の制作活動展部門です。また猫フィギュアは、なじょもん友の会の「Myコレクション展」から出品をお願いしたもので、同展は一旦休止が報告されているため交流展示も一旦終了ということになります。

新潟県立歴史博物館友の会では、平成15年度末（平成16年3月）に「第1回マイ・コレクション・ワールド」を開催し、その後これまで毎年度展覧会を行ってきました。震災復興支援展覧会、田中長嶺展、そして二本松での移動展覧会など、実に多彩な内容をもって開催してきました。それは第20回マイ・コレクション・ワールドのチラシ（下の写真）に示したとおりです。

令和6年度について、新潟県中越大地震から20年ということから、「それでもわが大地を愛し続ける」を開催することとしました。震災翌年の復興支援展覧会「震度7 それでもわが大地を愛す」。その後も友の会としてさまざまな災害、そして復興へのまなざしを持ち続けたいと思っています。

マイ・コレクション・ワールドはちょっとだけお休みし、次回（第21回）への充電期間にしたいと思います。ご理解のほどお願い申し上げます。



第 20 回展のチラシ
(裏面に過去展覧会のチラシ
を掲載)

2024 年度 新潟県立歴史博物館 新入職員紹介

山田 耕生 Yamada Takao 副館長

これまで土木部、農林水産部、産業労働部関係の職場での勤務が多く、文化的な分野の職場は初めての勤務となります。

私は上越市出身ですが、小学3年から中学1年まで茨城県に住んでいたため新潟県の歴史や文化をこれまで学ぶ機会がほとんどなく、日本で初めて火焰型土器が発見された遺跡が長岡にあることも、信濃川流域が日本有数の縄文時代の土器が出土する地域であることも歴史博物館に勤務して初めて知りました。

私の名前にある「耕」の英語は「cultivate」ですが、「culture」＝「文化」と語源は同じだそうです。「文化」とは「人の心や人生を耕し豊かにするもの」であり、私も歴史博物館勤務となったことを縁にもっと文化や歴史にふれ自分自身の心や人生を豊かにするとともに、当博物館の基本理念である「より県民に愛され、利用され、にぎわいのある博物館」の実現のため努めてまいりたいと思っています。

永瀬 史人 Nagase Humihito 学芸課（考古担当）

今年4月より学芸課の主任研究員として着任いたしました永瀬史人と申します。

専門は、縄文時代の考古学でこれまで縄文土器や土偶などを研究してきました。前職は、さいたま市の学芸員、その前は青森県埋蔵文化財センターの調査員、さらにその前は英国のセインズベリー日本藝術研究所の研究員と、各地を転々としておりましたが、当館とはご縁があり、2011年の企画展『にいがたの土偶』の講座で講演をさせていただいたことがございました。既に10年以上が経過しましたが、その時に歓待いただいた思い出は今でも鮮明に記憶に残っており、この地で再び仕事に携われることに喜びを感じております。

発掘調査に主に携わってきた私としては、博物館学芸員としての業務は初めてであり、慣れないことも多くありますが、同僚のお力をお借りしながら県民の皆様喜んでいただけるような活動をして参りたいと考えております。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

石井 寛二 Ishii Kanji 経営企画課（交流普及担当）

この4月に、長岡市立信条小学校より異動してまいりました、石井寛二と申します。歴史博物館には、児童の引率や研修会、プライベートなどで何回も訪れていました。この素晴らしい展示にあふれる歴史博物館に勤めることができ、大変うれしく思います。

私が初めて訪れたのは、魚沼の小学校で担任をしていた時でした。ものすごく高い天井、細部までこだわって作られたジオラマなどに衝撃を受けました。そして、11年が経ち、エントランス、通路、ジオラマが11年前と変わらない感じるほど、きれいに管理されていることに感動を覚えました。

開館して24年とは思えない、色あせない展示物たち。見学で訪れる学校団体だけでなく、来館したみなさまに、分かりやすく、心に残るように案内していきたいと思います。体験プログラム等、交流普及企画のイベントを通して、何度も足を運びたくなる、また遊びに来たくなる歴史博物館になるように精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。

岩瀬 春奈 Iwase Haruna 学芸課（民俗担当）

4月から着任いたしました、岩瀬春奈と申します。民俗担当です。昨年度までは國學院大學で研究補助員をしておりました。大学では民俗学を専攻しており、山の暮らしや信仰の担い手について研究しております。前任の大楽さんと同じ大学、同じサークル、同じ指導教授ということで…正真正銘の？後輩です！（年齢が離れているのでそれまでお会いしたことはありませんでした。笑）正直、偶然の巡りあわせのような採用だったので「何かのドッキリなのかな？」と疑っていましたが、今現在は、なんとか勤務にも生活にも慣れてきました。

はじめての新潟県で、はじめての学芸員です。何事もはじめて尽くして挑戦の毎日ですが、楽しいことだらけです。この博物館でたくさんの研鑽を積めるよう日々精進してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



まず会報の発行が大幅に遅れましたことについてお詫びいたします。諸事情により私だけでは編集を進めることが難しく、さまざまな方にご協力いただきました。特に友の会広報委員の星野さん・川口さんには編集や執筆に参加いただき、今後の編集体制の模索にむけて第一歩を踏み出すことができました。ありがとうございました。（事務局）

新潟県立歴史博物館友の会会報
No.26 2024 年 12 月 12 日発行

〔事務局〕新潟県立歴史博物館 経営企画課内
〒940-2035
新潟県長岡市関原町1丁目字権現堂 2247 番 2
TEL 0258-47-6135・6141 FAX 0258-47-6136
E-mail rekitomo2014@yahoo.co.jp